

# 全国基地爆音訴訟原告団連絡会議

## 第3回総会決議

私たち「全国基地爆音訴訟原告団連絡会議」は現在、全国で7つの爆音訴訟を係争中です。原告として被害を訴える人の数は、約3万7千名です。

これまでの粘り強い裁判闘争により、「爆音は違法」という司法の判断は定着してきました。しかし、被害の解消対象となる「飛行差止め」が認められた判決はこれまで一つもありません。

基地あるが故の住民被害の実態は、1975年に小松の爆音裁判が始まって以来何一つ変わっていないと言っても過言ではありません。

そればかりか、昨年来の米軍オスプレイの岩国基地への陸揚げ及び沖縄配備強行と日本全国で実施計画があきらかになった低空飛行訓練等によって、受忍限度を超える爆音下での生活被害・健康被害・環境破壊が広範囲に激甚化しているのが現実です。オスプレイの低空飛行訓練の関係自治体は200を超え、多くの被害が予想される住民や関係団体との連携を構築し、全国民に軍事基地問題の理不尽さを訴え、軍事基地撤去に向けた闘いを目指します。

欠陥機オスプレイは、自然環境や歴史遺産に対する悪影響から、米国ニューメキシコやハワイでは訓練が中止されていますが、沖縄―日本では環境影響評価もなしに米軍のやりたい放題です。爆音による具体的な被害がありながら、その救済の手立てを講じない国に対して、本日の全国基地爆音訴訟原告団連絡会議第3回総会に結集した私たち各地の原告団は、法廷内外でより一層連帯を強め、共に闘い続けていくことを確認しました。

同じ苦しみを抱える全国の人々の闘いを支援し、私たちの闘いの輪を広げ、静かな空を取り戻し、安心して暮らせる街、基地のない平和な日本を実現させるため、全力で闘いぬくことを、ここに決議します。

2013年11月24日

全国基地爆音訴訟原告団連絡会議第3回総会  
参加者一同

## 第3回全国基地連総会スローガン

1. 全国基地連の団結で、全ての訴訟に全面勝利しよう。
1. 国・防衛省によるコンター見直し等による原告団切り崩しを許さず、原告団は更なる団結を強化しよう。
1. 生命の危機をもたらす軍事基地からの事件・事故を許さない闘いを強化しよう。
1. MV22オスプレイ撤去・CV22オスプレイの新配備を断固阻止しよう。
1. 暴走する安倍内閣の特定秘密保護法・集団的自衛権等の戦争政策を断固阻止しよう。